

宇宙通信アドバイザーボード（第6回）議事要旨

日時：令和7年3月11日（火）13：30～14：55

場所：ハイブリッド（第3特別会議室＋オンライン）

出席者：梅比良座長、甘木構成員、石田構成員、加保構成員、小紫構成員

議題

- （1） 宇宙戦略基金実施方針（総務省計上分）第二期技術開発テーマ（案）について

議事要旨

梅比良座長により、議題に沿って議事を進行。

議題（1）について、事務局より説明が行われ、その後、各構成員より議論が行われた。議論の概要は次のとおり。

- 議論を進めていただき、重要なテーマに絞り込んでいただいたと思う。今後、多くのベンチャー企業や大学の参入がある可能性も踏まえ、柔軟性を持たせて運営をしてもらいたい。
- 10年後、20年後に若いエンジニアが宇宙分野を選択してくれるよう人材育成にも取り組んでいただきたい。
- 技術開発テーマの中身について、色々な提案ができるようにしていただいているので、提案者の工夫の余地がある格好になっていると思う。
- オペレータとベンダーという文言が出てくる点は、ものづくりだけではなく、サービスを行う方々も参入できる非常に良い取組だと思う。他方で、オペレータとベンダーを同じプレーヤーが行うケースも増えてきていると思われるところ、オペレータ・ベンダー特化という形ではなく広い応募が集まるようにしていただき、各プレーヤーがそれぞれの考え方で事業化の戦略を描けるような自由度があると良いのではないか。
- 宇宙戦略基金事業全体として、アンカーテナンシー等を繋げながら、将来事業化をして

いくといった目標が一つあるかと思う。政府として光通信の技術等をどのように活用していくかをリードしてもらえると、技術開発が終了した後に事業化で詰まることがなくて良いのではないか。

- 今後の時代を考えていくと、空からの通信ネットワークの重要性は、社会サービス、産業政策、安全保障等を含め様々な意味で上がってくると思う。通信政策全体の中における宇宙、衛星の位置づけを上げていくことも宇宙業界として重要だと考えており、政府の中でも宇宙、衛星の地位の引き上げを進めていただきたい。
- 衛星の利用がどれだけ広がっていくかには、やはり地上とのコスト競争が重要。地上に対して性能・コストで優位なエリアで衛星通信が使われることになるので、実際にサービス提供する方に頑張ってもらいたかなければならないと思う。
- 国内に還元していくことはもちろん重要だが、国際競争力を持っていく形での技術の育成や事業としての競争力をしっかり確保していくことも極めて重要。その過程において、すべてを国内で賄わなければならないとするのではなく、部分的に海外のメーカーと協力しても全体として国際競争力に資する場合にそれは評価し得るとしている点は重要である。
- テーマ⑤において、評価の観点としての海外事業者との連携に関する記載については、本文だけでなく概要資料にも明記いただくと良いのではないか。
- 他省とも調整の上、総務省として推し進めるべき重要な本質のテーマが選ばれたと思う。一方で、各省庁の管轄の境界領域に新たなビジネス展開の種となるようなテーマが潜んでいる可能性は大いにあるため、次の機会にそこを拾い上げ、逃さないようなサウンディングをいただきたい。
- テーマ⑤は衛星通信の活用が増える起爆剤になり得ると思う。一方で、周波数共用技術ではないという理由だけで提案を除くことなく、統合運用に資する技術かどうかというところで幅広に提案者の意見を聞いていただきたい。

以上